

# 日本門脈圧亢進症学会教育カリキュラム

改定 2018 年 9 月 21 日

はじめに

本カリキュラムは、技術認定制度において、認定を得るために必要な技術と知識のレベルについて、日本門脈圧亢進症学会教育委員会の審議により定めたものである。門脈圧亢進症の治療においては、治療選択も技術認定取得者に求められるものであり、自らが得意とする治療法に拘泥してはならない。それゆえに、門脈圧亢進症全般に関する相応の知識を必要とする。技術認定を取得する医師は、本レベルに到達するために日本門脈圧亢進症学会の指定する教育セミナーを受講しなければならない。また、取扱い規約・診療マニュアルを参考図書として指定する。

(註)各分野とは、内視鏡的治療 (E)・IVR (I)・手術療法 (S) の 3 分野を指す。

修得レベルを以下のように定める。

- A 必須
- B 各分野について必須
- C 全分野で知っておくことが望ましい
- D 各分野で知っておくことが望ましい

カリキュラムの分類

1 病因・病態

2 診断

超音波

内視鏡

超音波内視鏡

放射線

3 治療

内科的 (保存的)

薬物

内視鏡

**IVR**

外科的手術

シャント・直達・Hassab 手術・脾臓・移植

4 病理

## 1 病因・病態

- A 門脈圧亢進の病因、病態を説明できる
- A 食道胃静脈瘤に関与する血行動態を把握できる
- A 左胃静脈を説明できる
- A 脾腎シャントを説明できる
- A 側副血行路の日本門脈圧亢進症学会による分類を説明できる
- A 異所性静脈瘤を説明できる
- A バッドキアリ症候群を説明できる
- A 特発性門脈圧亢進症を説明できる
- A 肝外門脈閉塞症を説明できる
- A 脾機能亢進症について説明できる
- A 肝性脳症について説明できる
- C NRH を説明できる
- C Felty 症候群を説明できる

## 2 診断

- A 門脈圧についてその説明ができる
- A Child-Pugh 分類について理解し説明できる
- C 肝硬変の MELD スコアを理解している
- A 肝性脳症の意識障害の分類を説明できる
- C Japan Coma Scale を説明できる
- C 肝性脳症の誘因を説明できる
- C 肝腎症候群の診断ができる
- C 難治性腹水を診断できる
- C 門脈血栓症の診断ができる
- A 超音波検査、CT 検査、MRI、血管造影などの診断方法について適応を理解しオーダーできる
- C 超音波検査により門脈を観察できる
- C 超音波検査により肝静脈を観察できる
- C 超音波検査により門脈血栓を診断できる
- C 超音波ドプラ法ができる
- C 超音波カラードプラ法ができる
- C, B-I 食道胃静脈瘤の造影 CT を読影できる
- C, B-I 食道胃静脈瘤の MRI 画像を読影できる
- C, B-I 食道胃静脈瘤の血管造影を読影できる
- C 閉塞肝静脈圧を説明できる
- C, B-I 閉塞肝静脈圧の測定ができる

### 内視鏡的検査・超音波内視鏡検査

- A-E 上部消化管内視鏡検査が実施できる
- A 食道胃静脈瘤の内視鏡所見記載基準を理解できる
- A 発赤所見(RC)の意味について説明できる
- A 形態(F)の意味について説明できる
- B-E RCやFが判定できる
- B-E 門脈圧亢進症性胃腸症を判定できる
- B-E 内視鏡的治療後の所見について記載できる
- D-E 食道胃静脈瘤に対する超音波内視鏡検査が実施できる
- D-E 食道胃静脈瘤の超音波内視鏡所見を理解し記載できる
- D-E 細径超音波内視鏡ができる

### 3 治療

- A 治療時期について緊急、待期、予防の区別ができる
- A 緊急の食道胃静脈瘤出血例に対する対処法を理解している
- A Sengstaken-Blakemore チューブを挿入できる
- C 単バルーンチューブを挿入できる
- A 門脈圧降下薬の種類について理解している
- C バゾプレッシンの投与ができる
- C  $\beta$  ブロッカー・カルベジロールの処方ができる
- A 食道胃静脈瘤に対する内視鏡的治療について包括的に理解している
- B-E 内視鏡的治療の術前管理ができる
- B-E 内視鏡的治療の術後管理ができる
- B-E 食道静脈瘤に対する内視鏡的硬化療法(EIS)(5%E0による静脈瘤内注入法)を術者として実施できる
- B-E 食道静脈瘤に対する内視鏡的硬化療法(EIS)(1%ASによる静脈瘤外注入法)を術者として実施できる
- B-E EISの合併症の頻度を説明できる
- B-E EISの合併症を理解し、対処ができる
- D-E 透視下にE0I注入範囲が即座に判断できる、または内視鏡的静脈瘤造影EVISについて理解している
- B-E 食道静脈瘤に対する内視鏡的静脈瘤結紮術(EVL)を術者として実施できる
- B-E EVLの合併症を理解し、対処ができる
- D-E アルゴンプラズマ凝固法(APC)による地固め法が実施できる
- B-E 胃静脈瘤に対する組織接着剤を用いたEISを術者として実施できる
- B-E 組織接着剤を用いたEISの合併症を理解し、対処ができる
- B-E 組織接着剤の準備ができる

- A 門脈圧亢進症に対する interventional radiology(IVR)について、適応を理解し、オーダーすることができる
- B-I IVR の術前管理ができる
- B-I IVR の術後管理ができる
- B-I バルーン下逆行性経静脈的塞栓術(B-RT0)を術者としてできる
- B-I B-RT0 の治療適応について理解している
- B-I B-RT0 の合併症を理解し、対処できる
- D-I 経皮経肝的塞栓術(PT0)や経回結腸静脈塞栓術(TI0)を術者として実施できる
- D-I PT0 や TI0 の合併症を理解し、対処できる
- D-I 経皮的肝内門脈静脈シャント術(TIPS)の原理や適応を理解している
- B-I 部分的脾動脈塞栓術(PSE)を術者として実施できる
- B-I PSE の治療適応について理解している
- B-I PSE の合併症を理解し、対処できる
- A 門脈圧亢進症に対する手術療法について理解している
- B-S 手術療法の種類と方法について説明できる
- B-S 手術療法の術前管理ができる
- B-S 手術療法の術後管理ができる
- D-S 直達手術(食道離断術、Hassab 手術など)を術者として実施できる
- D-S 直達手術の治療適応について理解している
- D-S 直達手術の合併症を理解し、対処できる
- D-S シャント手術(遠位脾腎静脈シャント術など)を術者として実施できる
- D-S シャント手術の治療適応について理解している
- D-S シャント手術の合併症を理解し、対処できる
- B-S 脾腫・脾機能亢進症に対し、脾臓摘出術を術者として実施できる
- B-S 脾臓摘出術の治療適応について理解している
- B-S 脾臓摘出術の合併症を理解し、対処できる
- D-S 脾腫・脾機能亢進症に対し、腹腔鏡下脾臓摘出術を術者として実施 できる
- D-S 腹腔鏡下脾臓摘出術の合併症を理解し、対処できる
- A 難治性腹水の治療方法を挙げられる
- C 難治性腹水の治療ができる
- A 肝性脳症の治療方法を挙げられる
- C 肝性脳症の治療ができる
- A 門脈血栓症の治療方法を挙げられる
- C 門脈血栓症の治療ができる
- C 移植の適応を知っている

#### 4 病理

- A 肝硬変の病理を知っている
- C 特発性門脈圧亢進症の病理を知っている
- C 肝外門脈圧亢進症の病理を知っている
- C バッドキアリ症候群の病理を知っている
- C 日本住血吸虫症の病理を知っている
- C 食道静脈瘤の病理を知っている
- C 内視鏡でみられる発赤所見の病理について説明できる
- C 胃静脈瘤の病理を知っている